

平成30年度石巻市子どもの未来づくり事業（第Ⅲ期）

「学習指導の改善を図る研修会」

本研修会は、石巻市内小・中学校の教員を対象に平成27年度から本格的にスタートし、今年で4年目となります。石巻市の各小中学校が抱える学校課題の解決に向けて、「学級づくり」「人間関係づくり」「信頼関係づくり」「児童生徒理解」の4つの視点から教員の指導力向上を図り、その結果、学級や学校の力が向上し、学力も向上していくという認識のもと、取り組んでいるものです。

第7回、第8回研修会

- 日時 平成30年9月27日（木）、10月4日（木）
9：30～16：40
- 場所 石巻市立桃生小学校、
石巻市立中津山第一小学校
- 講師 弘前医療福祉大学保健学部 小玉有子教授

☆研修内容

- 27日午前：学校不適応行動の理解と対応
- 27日午後：修復的正義とチーム支援の実践
- 4日午前：発達検査の理解
- 4日午後：行動観察 理論と方法

今回の研修では、生徒指導主事やいじめ不登校対策担当、特別支援コーディネーターの先生方が受講しました。



小玉教授、高橋教授には、より実践的な講義・演習をいただきました。



<受講者の声>

- ◇ 修復的正義の考え方が特に印象に残った。本校では、校長が常々、「生徒指導は自己指導力を育成する、社会で生きる力を育む」と話している。コミュニティを更によくしていく発想というのはとても重要な視点であると感じた。
- ◇ 「チームの支援」では、チームのシステムを作っていく際、どんな機関があるかを話し合い、活用できる機関が思った以上にたくさんあると知りました。
- ◇ 「反社会的行動を起こす生徒にも、非社会的行動を起こす生徒に接するのと同じように優しく支援をすべきだ」というお話には、深い共感を覚えた。
- ◇ ネガティブ感情の蓄積が、日々学校で行われていると反省する時間になりました。
- ◇ いじめや不登校問題には、携帯が関係するSNSトラブルが深刻化していることを改めて感じました。
- ◇ 様々な発達検査の特徴や特性について学ぶことができました。数値の読み取り方や見立ての仕方について、ペアでの実践を通して理解を深めることができました。
- ◇ 普段から児童の様子をよく観察し、ちょっとした異変に気付くことが問題行動の予防になることから、私も気をつけていきたいと思います。
- ◇ 特別支援コーディネーターとしての役割について考えさせる言葉が多く、良い機会となった。
- ◇ 最後のワークで、自分の気になるケースについて、生徒の特性を具体的に考えた時間は貴重でした。行動から特性を推定し、支援策を検討するというのを、今後実践していきたいと思います。その上でも一人で行うよりも複数で行うことで、客観性が増すため、チーム支援が大切であると感じました。
- ◇ 専門的な心理検査よりも、教員による行動観察の方が子どもの実態をよくとらえることになる、というお話を聞き、少し自信を持って取り組んでいいのだと考えることができた。
- ◇ 実際にどのような支援ができるかは、生徒のニーズが分からなければ実現できないと強く感じました。コーディネーターとして、他の教員にも伝えていきたいと思いました。
- ◇ 演習が多かったので、生徒の実態把握の甘さに反省をした。特性理解シートは、時間をかけて生徒の実態をしっかりとメモできるいい機会となった。



研修の合間に、積極的に質問をする先生方。

